



JFVSS Newsletter

教育

冬も終わりに近づき、コロラドもだいぶ暖かくなってきました。まだ雪が降ったりすることはあるので気は抜けませんが春はすぐそこに来ているのを日々感じます。今年は専門医に向けた第一関門の一般試験を6月のACVIMフォーラムで受けることになっています。当然ながら落ちる事のないよう気を引き締めて望んでいきます。

レジデントの仕事の一つとして学生教育も課せられています。まずは学生が問診をとって診療プランを立ててから自分達レジデントと話し合いに来ます。学生の経験・知識レベルは様々なので、中にはビックリするようなプランを立ててくるようなことも……。その際、「どのような鑑別疾患があって、どのようにアプローチしていくか」といった自分の思考過程を論理的に伝え、時には学生に質問して考えさせながら時間をかけて最終的な診療指針を練っていきます。専門医はその会話を小耳に挟みながら必要に応じて診療をガイドしていきます。また、毎朝1時間程度診療前のラウンドではその時の入院症例や学生のリクエストに応じて対話形式の授業を行います。

正直こちらで仕事を始めた頃は、この診療しながらの教育というシステムに少しいらだちもありました。学生教育に時間を取られる分、飼い主さんを待たさせることになるからです。ただ、このような環境で数年やってきて、学生教育を通じて驚くほど自分の臨床医としての力がアップしていることを実感しています。「教えることは学ぶこと」とはよく言ったものですね。飼い主さんも教育病院という事を理解しているので待つことを厭わない人が多いのも大変助かっています。このような環境で経験を積めることは臨床医としても教育者としても貴重であると日々感じています。

佐藤 雅彦

